

■米国：連邦議会上院、環境保護局（EPA）長官にウィーラー氏を承認

米国連邦議会上院は2019年2月28日、環境保護局（EPA）長官に元石炭ロビイストとして知られるアンドリュー・ウィーラー氏（現EPA長官代行）を承認した。ウィーラー氏は、トランプ政権で環境基準の規制緩和策（石炭火力発電所からのCO₂排出規制案（ACE）や自動車や小型トラックの燃費基準（CAFE）凍結など）を推進してきた。上院での承認投票の結果は52対47で、共和党からはスーザン・コリンズ上院議員（メイン州）が反対した。コリンズ上院議員は反対した理由として、「メイン州は立地的に他州の石炭火力発電所からの大気汚染の影響を受ける。また、気候変動を引き起こしている温室効果ガスの排出は州の経済や自然に重大な脅威をもたらす。大気汚染物質を減らすことは、全米で最も喘息率が高い同州にとって重要である」とした。一方、多くの共和党上院議員や経済界からは、重要な環境保護を損なうことなく産業の負担軽減につなげているウィーラー氏のこれまでの経験や実績を評価する発言がなされている。